

新型に対して、報道等情報がいろいろ出され又、国の対策も一貫性なく、大変でした。

教職員、出勤停止保障

学校で十分な感染予防対策を実施するために、予防に必要な物品又は予算の配当をお願いしたい。

学校での出席停止状況（学年・人数など）を、県教委・保健体育課に報告することになっているが、インターネット等電子メールで、随時報告できるシステムになると、事務的な業務が軽減できる。

鳥取県は、国立感染症研究所が中心となってすすめておられる「学校欠席者情報収集システム」を活用して、県内外の学校における感染症の状況を毎日情報収集していますが、まだまだ全国規模のシステムになっていません。このシステムも厚生労働省の事業であると聞いていますので、早急に全国規模のシステムになり今以上に有効活用できるものになるよう働きかけをお願いできたらと思います。

正しい情報をできるだけ早く知らせてほしい・感染予防対策用の備品の配給を充分にしていただきたい。

正確な情報をより早く対策を含めて連絡してほしい。

強毒が発生した場合、早めに県としての指針を出してほしい。

情報をきちんと提供する。・マスコミが大きわぎをしないようにすること。・患者のプライバシーを守る配慮・予算と、人的配置を用意すること。

インフルエンザ予防接種費用の補助

強毒性の新型インフルエンザが発生した時はどうしたらよいのか不安。情報がほしい

現在のインフルエンザが強毒化した場合…パンデミック発生時の被害の想定や対応などを世間に徹底・周知させる必要があると感じています。

今の対応で（情報提供、資料提供）充分と思われる。

早い情報と対策やワクチンの無料化（子どもや高齢者も）高校生も無料化になると良いと思いますが、無料ワクチンが増えている（麻しん風しん、子宮頸ガン予防など…）接種率が低下するでしょうか…正しい情報を下さることが一番良いのではないかと思います。

出席停止の基準が当初言っていたのが、変わっていく過程で、情報が入らなかつたので、戸惑いがあった。厚生労働省のホームページも、当初のままだった。

・迅速な情報周知。・医療を受けられる場の確保、医療機関への支援体制。

不測の事態（急に発生する感染症）が起きた時にまん延防止の物資を各学校に調達して使わせてほしい。昨年度、配布されたが、使用制限があり、消毒薬やマスクが手に入らず、もどかしかった。

対応が後手にまわりがちな事が心配。適切な指導指針（学級閉鎖等の対応についてなど）を示しておいてほしいこと。タイムリーな情報を学校へほしいこと。

インフルエンザワクチンに対しての助成制度の充実（市町村によって基礎疾患を持っていない一般の人への助成の有無が有る）

| |
|---|
| 衛生材料の備蓄・予防接種の無料化・感染症を診断する医療機関の拡大 |
| 正しい情報の提供 |
| 予防のための施設、設備のために助成してほしい |
| 過大でも過小でもなく、そのままの実態を把握し、迅速に対策を立てて頂きたい。各専門家がマスメディアで色々言われ不安にさせるが、学校の対応は行政に添うものであるため。よろしくお願ひします。 |
| 予防接種推進のため、生徒が接種する際には、自治体から費用の補助があると思う。 |
| 感染予防のための設備や消耗品購入についての予算がなく、校内でのやりくりには限界がある。早期に予算化するなどの対応をしてほしい。 |
| 文科省と厚労省の連携・分担をスムーズにしてもらえば末端は悩まずに実施できる。 |
| すみやかな、情報の提供 |
| 予算の確保 |
| 国、県、各市町村の対応の枠組の中で、学校でどのような対応をしていくのか具体的な指針を早めに呈示して貰いたい。 |
| 昨年度当初は、感染した疑いのある場合、すぐに医療機関へ行かないようにという指示があったが、そのような場合どうすれば良いのか具体的に示してほしい。 |
| 学校内の保健関係者（養護教諭等）へは予防接種ワクチンを無償にしてほしい。 |
| その年の流行型の特徴を早く周知するシステムつくり |
| 特にない。早期より情報等の連絡（FAX）が入り、また、パンフレットやポスター等予防啓発をすすめてもらっています。 |
| ・感染症対策費を予算化してほしい。 |
| 医療機関への情報提供はもちろんですが、学校等への情報提供も早目にお願いしたい。テレビ等で報道されてから、情報収集して、対策では、遅い気がしますので時期がくれば早目に対策をしていますが、流行すれば早いですから |
| 予算についても考えてもらわないと予防対策は実行できません。指導ばかりではなく財政面についても同時に考えてほしい。 |
| 新型インフルエンザ（強毒性）や鳥インフルエンザなどが流行した場合に備えて、行動マニュアルを作成してほしい。学校独自で作るのは困難。 |
| 入試時、受験者がインフルエンザの場合の対応を明確に指示して欲しい。 |
| ・予防対策にともなった衛生品の予算措置・地域の感染状況の情報 |
| マスコミに振りまわされず正しい情報と専門家の判断のもとに対策をし、感染者への誹謗中傷がおきないよう充分配慮してもらいたいです |
| 学校などにおいては出席停止という措置が実行できるが、社会人においても安心して休めるよう保障してもらいたい。 |
| ワクチンの確保医療機関のみでなく、学校で蔓延していますから。 |

昨年、現実的でない指示があり、現場では混乱した。学校だけ閉鎖しても、生徒は外に遊びに行ってしまうので、商業施設も休みにする等、全体的に対策をしてほしいと思います。

- ・昨年度は予防ワクチンの接種に優先順位があり、教職員が、なかなか接種できなく疑問を感じた。

最新の情報提供

- ①現場の教職員へのワクチンの優先接種②特に養護教諭

予防接種率を上げるための、行動疫学上の技術指導。

保健担当教員ではなく、学校管理者（校長・教頭等）への研修会が必要だと思う

6. 貴校の保健活動について（複数選択可、また文章中のカッコ内に○を付けてください）

| | 授業中 | % | 集会 | % | プリン ト配布 | % | 掲示物 | % |
|----------|-----|------|-----|------|------------|------|-----|------|
| 基礎的な生活指導 | 240 | 42.8 | 176 | 31.4 | 483 | 86.1 | 420 | 74.9 |
| 薬物汚染 | 366 | 65.2 | 366 | 65.2 | 298 | 53.1 | 355 | 63.3 |
| 薬物汚染 | 411 | 73.3 | 182 | 32.4 | 291 | 51.9 | 358 | 63.8 |
| 性感染症 | 422 | 75.2 | 290 | 51.7 | 305 | 54.4 | 330 | 58.8 |

D. 考察

高等学校における新型インフルエンザ対策について現状と課題について自己記入式の調査をした。新型インフルエンザに対するマニュアルやマスク等の備品の整備はなされてきている。学級閉鎖や学校閉鎖については、都道府県で一律に決められているところと、学校毎に決めているところがあり、1割～2割の生徒の感染により学級閉鎖する場合が多かった。職員が感染したときの計画については約1割しか決められておらず、対応の困難さが伺える。現在の課題や要望やとしては、ワクチンの無料化や備品整備等への予算措置を上げる場合が多かった。

E. 結論

高等学校における新型インフルエンザ対策について現状と課題について明らかにした。

F. 健康被害情報

なし。

G. 研究発表

○小坂健、竹内研時、相田潤. 介護施設における新型インフルエンザ対策に関する調査研究. 第69回日本公衆衛生学会総会 2010年10月

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし。

1. 学校概要について

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 1) 学校名 | () |) |
| 2) 学校の種類 | 国公立・私立 | |
| 3) 所在地の郵便番号 | 〒 | |
| 4) 教員数 | () 人 | |
| 5) 全校生徒数 | () 人 | |

2. 新型インフルエンザの管理について

- | | |
|---|---------------------|
| 1) 学校保健委員会は設置されていますか。 | 1. ある |
| | 2. ない |
| 「1. ある」と回答した場合のみ、以下ご回答ください。 | |
| 2) 委員会で新型インフルエンザについて話しあったことはありますか。 | 1. ある |
| | 2. ない |
| 3) 新型インフルエンザに関するガイドライン・マニュアルが整備されていますか。 | 1. ある |
| | 2. ない |
| 4) 学校の新型インフルエンザ管理や衛生管理の方法などについて、相談する先がありますか。（複数選択可） | 1. 学校医 |
| | 2. それ以外の医療機関の医師・看護師 |
| | 3. 保健所 |
| | 4. 養護教員 |
| | 5. その他（ ） |
| | 6. 特にない |
| 5) 相談内容（複数選択可） | 1. 感染方法、感染経路 |
| | 2. ウイルスの型 |
| | 3. 予防薬・ワクチンについて |
| | 4. 感染予防について |
| | 5. 潜伏期間 |
| | 6. 合併症 |
| | 7. 治療法 |
| | 8. その他（ ） |

3. 新型インフルエンザ予防について

- 1) 通常のインフルエンザ対策とは異なった、新型インフルエンザのための予防策は講じていますか。

「1. はい」と回答した場合のみ、予防策の内容を具体的にご記入ください。

- 2) 教職員、生徒またはその保護者への情報提供体制の整備、普及啓発をしていますか。 (複数選択可)

1. はい

2. いいえ

1. 新型インフルエンザ対策委員会の設置
2. 職員または生徒、保護者へのメール配信
3. 学校内の掲示
4. マニュアルの製作
5. その他

()

6. 特にしていない

1. マスク
2. 手洗い用石鹼
3. アルコール製剤
4. ゴーグル
5. 手袋
6. 加湿器
7. その他 ()

8. 備蓄していない

- 3) 学校内に感染対策用の備品がありますか。 (複数選択可)

1. マスク

2. 手洗い用石鹼
3. アルコール製剤
4. ゴーグル
5. 手袋
6. 加湿器
7. その他 ()

8. 備蓄品はどれも使用している

- 5) 生徒またはその保護者への新型インフルエンザ予防に対する指導をしていますか。 (複数選択可)
1. 手洗い
 2. マスクの着用
 3. 手袋の着用
 4. うがい
 5. せきエチケット
 6. その他
()
 7. 指導していない
- 6) 学校内 (ドアノブや床など) を、感染予防を目的とした清掃・消毒はしていますか。
1. 2回/日以上
 2. 1回/日
 3. 1回/日未満
 4. していない
- 7) 職員への感染対策に関する研修を実施していますか (外部研修も含みます)。
1. している
 2. していない

4. 新型インフルエンザ発生時の対応について

- 1) 2010年4月2日から2011年2月末日までに、学校内にインフルエンザ患者は何人確認されましたか (疑わしい患者も含む)。
- | | |
|----------------|-------------|
| 生徒の感染確認 () 名 | 感染の疑い () 名 |
| 教職員の感染確認 () 名 | 感染の疑い () 名 |
- 2) 新型インフルエンザの症状が疑われる患者が発生したときの対応策はありますか。
- 「1. はい」と回答した場合のみ、以下ご回答ください。
- 3) 患者本人への対応策の内容 (複数選択可)
1. 早期受診の推奨
 2. 病院の紹介
 3. 登校制限
 4. 手洗い
 5. マスクの着用
 6. うがい
 7. せきエチケット
 8. 水分補給と十分な睡眠

| | |
|--|---|
| | 9. その他 () |
| 4) 患者以外への対応策の内容（複数選択可） | 10. 特にしていない 1. 早期受診の推奨 2. 病院の紹介 3. 登校制限 4. 手洗い 5. マスクの着用 6. うがい 7. せきエチケット 8. 水分補給と十分な睡眠 9. その他 () |
| 5) インフルエンザへの対策として、学級閉鎖することはありませんか。 | 10. 特にしていない 1. ある 2. ない |
| 6) 「1. ある」と回答した場合 停止の条件、基準 | |
| 7) インフルエンザへの対策として、学校閉鎖することはありませんか。 | 1. ある 2. ない |
| 8) 「1. ある」と回答した場合停止の条件、基準 | |
| 9) インフルエンザで、多くの教職員が出勤困難となった場合の代替策はありますか。 | 1. ある 2. ない |
| 10) 「1. ある」と回答した場合 具体策 | |

5. 新型インフルエンザ対策に関する課題について

- 1) 新型インフルエンザ対策を推進していく上での課題がありますか。（複数選択可）
- 2) 新型インフルエンザへの対策で、実行したくてもできないことはありますか。
1. 感染症についての情報の収集
2. 教職員への予防策の周知徹底
3. 感染症を診断する医療機関の協力
4. 衛生管理・感染管理に必要な設備の充実
5. 生徒やその保護者への理解促進
6. その他（ ）
7. 特にない
1. ある
2. ない

「1. ある」と回答した場合のみ、以下ご回答ください。

I) 内容

II) 理由

- 3) 新型インフルエンザに関する行政等への要望はありますか。

- 1) 基礎的な生活指導を（授業中・集会をひらいて・プリント配布・掲示物）にて情報通知をしている
2) 薬物汚染について（授業中・集会をひらいて・プリント配布・掲示物）にて情報通知をしている
3) 喫煙について（授業中・集会をひらいて・プリント配布・掲示物）にて情報通知をしている
4) 性感染症について（授業中・集会をひらいて・プリント配布・掲示物）にて情報通知をしている
5) フッ化物洗口を実施している
6) 昼食後の歯磨きを励行している

7. 新型インフルエンザ対策に関して、ご自由にご記入ください

ご協力ありがとうございました。

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金
(新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)
(分担) 研究年度終了報告書

学校におけるインフルエンザ流行に関する疫学研究

研究分担者

神垣太郎 東北大学大学院医学系研究科 助教

押谷 仁 東北大学大学院医学系研究科 教授

研究要旨： 2010/11 年シーズンにおいて 2 地域から合計 4 つの中学校区を抽出して、そこに含まれる中学校および小学校でのインフルエンザの罹患状況を、患児が発生した世帯に関する情報とともにアンケート調査を行った。それによれば小学校の流行規模は中学校よりも大きいこと、ほとんどすべてが医療機関を受診して診断を受けていること、平均して 4-5 日の欠席日数であったこと、世帯の中でも多くのインフルエンザ罹患者が認められ、数としては就労者に多いが、各階層に占める割合を見ると幼稚園・保育園が最も多いことが分かった。本調査の所見は地域でのインフルエンザの流行像を理解するために有用であると考えられる。

A. 研究目的

2009 年 4 月頃から北米を端として世界中に拡大したパンデミック (H1N1) 2009 による被害は世界中で大きな問題となつた。わが国でも新型インフルエンザ行動計画をもとに一貫した新型インフルエンザ対策が行われたが、この対策は流行のフェーズによって目的および手段の優先度が変わることが基本である。大きく分けると 2 つある手段のうちの 1 つが公衆衛生対応と呼ばれるものであり、このうち学校における休業措置を実施することは有効な手段であるとされてきた。しかしインフルエンザ流行期における休業措置の実施には不明な点が多い。とくに流行の規模の大小における措置の効果に関する知見をあつめることが重要であると考えられる。今回は 2010/11 年シーズンにおける学校の休業

措置に関する疫学研究を実施することとなつた。

B. 研究方法

2010/11 年シーズンにおける学校での欠席者数を把握するとともに、欠席した児童がいる世帯でのインフルエンザの罹患についてアンケート調査による情報収集を行った。研究対象地域は、奈良市および広島市にある中学区から医療機関によるインフルエンザサーベイランスのカバー率を勘案して 2 つの中学校区とそれに含まれる小学校区を対象とした（奈良市：2 中学校、3 小学校、広島市：2 中学校、6 小学校）。アンケート調査期間は 2010 年 10 月から 3 月 4 日までとして、回答期間を 3 月 4 日から 11 日までに設定して保護者により回答してもらったアン

ケート用紙を、当該学校を通じて回収した。なお3月11日に発生した東日本大震災のために研究対象地域から分担研究者が所在する地域までの郵送が困難であったためにデータの回収および解析が当初の予定より遅れた。データの回収は物流が再開した4月初旬に回収することができた。

C. 研究結果

奈良市では2中学校区（2中学校と3小学校）からあわせて生徒1725名分の回答があった（回答率94.1%）。また広島市からも2中学校区（2中学校と6小学校）からあわせて生徒4139名（回答率71.3%）と教職員242名（回答率56.3%）から回答があった。奈良市ではのべ211名のインフルエンザ患者が報告された。月別に在校数で除した割合を示す（図1）。広島市ではのべ16名、311名のインフルエンザ患者が教職員、生徒から報告された。月別に在校数で除した割合を示す（図2）。これから流行期では小学校での流行が中学校に比べると大きくなること、いずれの地域でも1月から2月にかけてインフルエンザ患者が発生していた。広島市ではあわせて16例のインフルエンザ例が報告された。その発生時期は半数が2月に発生しており、との半数は11月から1月に散発していた。1例を除いて全例が小学校の教職員であった。

医療機関への受診率は、奈良市と広島市でそれぞれ98.2%~98.5%と非常に高率であった。また罹患時に学校を欠席した生徒の割合はそれぞれ、98.0%、98.5%であった。教職員はいずれに100%であった。ここから罹患した際には医療機関を診断を受けていること、また欠席していることがわかる。欠席日数はそれぞれ5

日、4日と変わらなかった。

同居する家族に関する情報を収集するとともに今シーズンのインフルエンザの罹患について回答を求めたところ、延べ人数で最も多かったのは、働いている者であり奈良市で51例、広島市で111例があった。次に多かったのは幼稚園・保育園に通園している子供で19例と73例であった。ところがアンケートで集計できた各階層（就労者、大学生、高校生、幼稚園・保育園）の合計で除して比較すると両地域それぞれで38.0%と37.0%と幼稚園・保育園に通う同居者のインフルエンザ罹患率が高いことが分かった。

D. 結語

インフルエンザの流行において学校での拡大は、その地域における流行に重要な役割を占めると考えられている。しかしながらこの詳細については、よく分かっていない。そのために今回我々は、各市教育委員会を通じて学校におけるインフルエンザの罹患の状況に関するアンケート調査を実施した。これによれば小学校での流行が同じ校区にある中学校よりも規模が大きくなること、その多くが医療機関を受診して平均して4~5日の欠席をしていること、家族内のインフルエンザ罹患者数が全体の5.2%に認められること、そのうち数が多いのは就労者であるが、罹患率は幼稚園・保育園が最も大きかったことがわかった。今後は医師会のサーベイランス情報をもとに休業措置の効果について解析を進めていく予定である。

E. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

2. 実用新案登録 特記事項なし

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得 特記事項なし

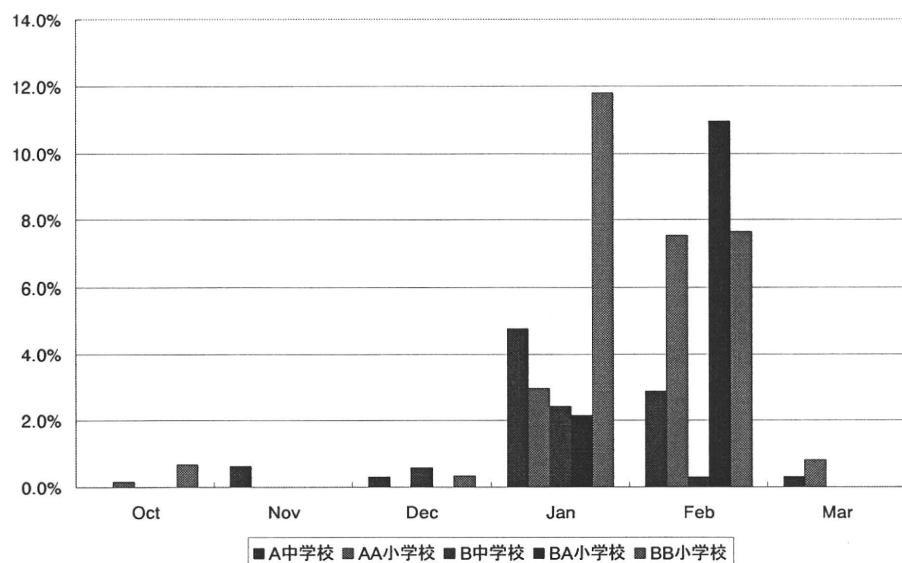


図1. 奈良市における各学校の全校生徒に占めるインフルエンザ患者数の割合

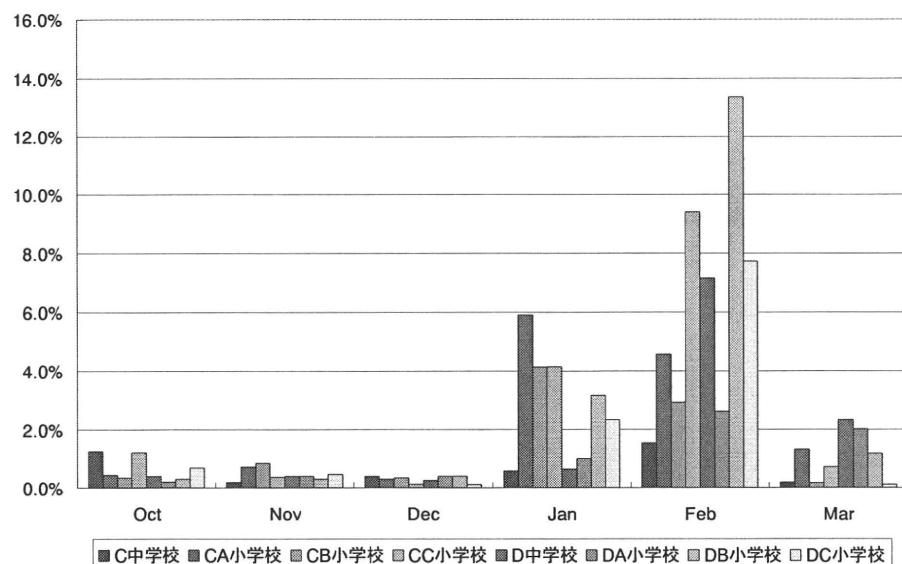


図2. 広島市における各学校の全校生徒に占めるインフルエンザ患者数の割合

保護者の皆様へ



インフルエンザに関するアンケート

回答の際のお願い

インフルエンザに複数回かかったと考えられる場合には最初にかかった回についてご回答ください。

1. 児童に関する質問

学年 _____ クラス _____ 出席番号 _____ 年齢 _____

2. 病気に関する質問（2010年10月から2011年3月までの期間についてお答えください）

| | | | | | | |
|-------------------------|--|--|---|---|---|----|
| 児童はインフルエンザにかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | (※) 左の質問で「いいえ」または「わからない」と答えた方は 3 にお進みください。 | | | | |
| それはいつですか | <input type="checkbox"/> 10月 <input type="checkbox"/> 11月 <input type="checkbox"/> 12月 <input type="checkbox"/> 1月 <input type="checkbox"/> 2月 <input type="checkbox"/> 3月 | | | | | |
| その際に病院にかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | | | | | |
| 右の一覧にあるお薬（注）は処方されましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | (注)インフルエンザに対するお薬の一覧 タミフル、リレンザ、イナビル、ラビアクタ（注射剤） | | | | |
| インフルエンザにかかった際に学校を休みましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | その時に学級閉鎖や学年閉鎖あるいは学校閉鎖がされていましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | | | |
| 学校を休んだ期間について教えてください | 月 | 日 | ～ | 月 | 日 | 日間 |

3. 生活に関する質問

| | | |
|----------------------------------|---|---------------------------------|
| <u>発熱する前の7日の間にどんな課外活動を行いましたか</u> | <input type="checkbox"/> 学習塾 <input type="checkbox"/> スポーツ <input type="checkbox"/> 習い事（ピアノ、そろばん、書道等） <input type="checkbox"/> その他（ ） | |
| <u>同居されている人数は全員で何人ですか</u> | <input type="text"/> 人 | |
| <u>お勤めになられている方は何人ですか</u> | <input type="text"/> 人 | |
| <u>大学生は何人ですか</u> | <input type="text"/> 人 | <u>そのうち今シーズンにインフルエンザにかかった人数</u> |
| <u>高校生は何人ですか</u> | <input type="text"/> 人 | |
| <u>幼稚園児・保育園児は何人ですか</u> | <input type="text"/> 人 | |
| | <input type="text"/> 人 | |

回答が終わりましたら担任の先生への提出してください。ご協力ありがとうございました。

調査に関してご不明な点は、裏ページにある連絡先までご連絡下さい。



研究概要

研究課題：インフルエンザ流行に対する学校の臨時休業の効果に関する研究

目的・意義

2009年にはいわゆる新型インフルエンザが出現して大きな社会問題となりました。わが国では他国に比して少ない死亡者数で収まり、それは様々な対策の効果があったからだと考えられます。一方で社会生活に大きな影響を与えたことも事実であり、対策の検証の必要性が指摘されています。本研究の目的はインフルエンザの流行においてどの程度の規模の伝播が学校に関連して発生しているのか、またどのような特徴があるのかを知ることです。その結果から学校におけるインフルエンザ伝播の危険因子を知ることができ、将来において学校の休業措置の基準を見直す上で役立つと考えています。

研究に参加することで被る利益および可能性のある不利益

本研究に参加されたことによる謝礼などは支払われませんが、この研究に参加していただくことにより、お子様を始めとする地域の皆様に対するインフルエンザの予防に寄与すると考えられ、より良い公衆衛生を推進するものと考えられます。

身体的に被るリスクはありません。また提供していただいた情報に関しては守秘義務を厳守いたします。なお本研究にご協力をお願いすることは地域で流行しているウイルスや流行の規模とは関係がないことを申し添えます。

守秘義務

本研究で頂いたデータは個人を特定できないように加工いたします。また本研究以外に使用することはなく、これらの情報は安全管理されたデータベースとして処理を行います。

研究参加の拒否

もし本研究に同意をされなかったとしても不利益は生じません。また同意された後でも、いつでも本研究から脱退することは可能です。希望の際には、下記連絡先までご連絡ください。その際には頂いたデータはこちらで削除するものとし、その後使用することはありません。

研究代表者

厚生労働科学研究費補助金「新型インフルエンザ流行時における公衆衛生対策に関する研究」

押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科 教授）

こちらの研究についてご興味のある方は、

<http://www.virology.med.tohoku.ac.jp> にてご覧いただけます。

ご不明な点がありましたら下記連絡先までご連絡ください。

但し、この研究に関するご質問に限らせていただきます。

月-金曜日（時間 9:00-17:00、メールは 24 時間受け付けます）

神垣 太郎 (gakkoproject@virology.med.tohoku.ac.jp)

東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

Tel: 022-717-8213 / Fax: 022-717-8211

教職員の皆様へ

インフルエンザに関するアンケートのお願い

毎年冬になるとインフルエンザが流行し、多くの人がインフルエンザにかかっています。学校に関連してどの程度インフルエンザが流行するのかを知ることは、とても大切な情報となります。そこで、厚生労働省と文部科学省が東北大学と協同して研究を計画し、市内のインフルエンザの状況が良くわかる広島市にある当校でアンケートをとりたいという依頼がありました。

皆様のご協力は、子供たちをはじめとして、地域の皆様の健康を守るために貴重なデータとなると考えられます。お忙しいところ恐縮ですが、下記のアンケートにご協力くださいますようよろしくお願いします。

(回答の際の注意事項)：インフルエンザに複数回かかったと考えられる場合には最初のエピソードについてご回答ください。

1. 学校に関する質問

| | |
|-------------|--|
| 受け持ちのクラスがある | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 学年 | <input type="checkbox"/> 学年 <input type="checkbox"/> クラス |

2. 病気に関する質問（2010年10月から2011年3月までの期間についてお答えください）

| | | |
|-------------------------|--|--|
| インフルエンザにかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | (※) 左の質問で「いいえ」または「わからない」と答えた方は3にお進みください。 |
| それはいつですか | <input type="checkbox"/> 10月 <input type="checkbox"/> 11月 <input type="checkbox"/> 12月 <input type="checkbox"/> 1月 <input type="checkbox"/> 2月 <input type="checkbox"/> 3月 | |
| 病院にかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | 病院でインフルエンザと診断されましたか |
| 右の一覧にあるお薬（注）は処方されましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | (注)インフルエンザに対するお薬の一覧 タミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタ（注射剤） |
| インフルエンザにかかった際に学校を休みましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | その時に学級閉鎖や学年閉鎖あるいは学校閉鎖がされていましたか |
| 学校を休んだ期間は？ | 月 日 ~ 月 日 | 日間 |

3. 本人および家族に関する質問

| | | | |
|--------------------|--|----|---|
| 年齢 | <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 | 性別 | <input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女 |
| 同居されている人数は全員で何人ですか | 人 | | |
| お勧めの方は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | そのうちインフルエンザにかかった人数 |
| 大学生は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | |
| 高校生は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | |
| 中学生は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | |
| 小学生は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | |
| 幼稚園児・保育園児は何人ですか | <input type="checkbox"/> | 人 | |

ご協力ありがとうございました。ご不明な点は、裏ページにある連絡先までご連絡下さい。

研究概要

研究課題：インフルエンザ流行に対する学校の臨時休業の効果に関する研究

目的・意義

2009年にはいわゆる新型インフルエンザが出現して大きな社会問題となりました。わが国では他国に比して少ない死者数で収まり、それは様々な対策の効果があったからだと考えられます。一方で社会生活に大きな影響を与えたことも事実であり、対策の検証の必要性が指摘されています。本研究の目的はインフルエンザの流行においてどの程度の規模の伝播が学校に関連して発生しているのか、またどのような特徴があるのかを知ることです。その結果から学校におけるインフルエンザ伝播の危険因子を知ることができ、将来において学校の休業措置の基準を見直す上で役立つと考えています。

研究に参加することで被る利益および可能性のある不利益

本研究に参加されたことによる謝礼などは支払われませんが、この研究に参加していただくことにより、お子様を初めとする地域の皆様に対するインフルエンザの予防に寄与すると考えられ、より良い公衆衛生を推進するものと考えられます。

身体的に被るリスクはありません。また提供していただいた情報に関しては守秘義務を厳守いたします。なお本研究にご協力をお願いすることは地域で流行しているウイルスや流行の規模とは関係がないことを申し添えます。

守秘義務

本研究で頂いたデータは個人を特定できないように加工いたします。また本研究以外に使用することはなく、これらの情報は安全管理されたデータベースとして処理を行います。

研究参加の拒否

もし本研究に同意をされなかったとしても不利益は生じません。また同意された後でも、いつでも本研究から脱退することは可能です。希望の際には、下記連絡先までご連絡ください。その際には頂いたデータはこちらで削除するものとし、その後使用することはありません。

研究代表者

厚生労働科学研究費補助金「新型インフルエンザ流行時における公衆衛生対策に関する研究」

押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科 教授）

こちらの研究についてご興味のある方は、

<http://www.virology.med.tohoku.ac.jp>にてご覧いただけます。

ご不明な点がありましたら下記連絡先までご連絡ください。

但し、この研究に関するご質問に限らせていただきます。

月-金曜日（時間 9:00-17:00、メールは 24 時間受け付けます）

担当 神垣 太郎 (gakkoproject@virology.med.tohoku.ac.jp)

東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

Tel: 022-717-8213 / Fax: 022-717-8212

保護者の皆様へ



インフルエンザに関するアンケート

回答の際のお願い

1. 在学のお子さんが2人以上いらっしゃるのであれば、一番上のお子さんの用紙に在校の兄弟姉妹全員分を記入してください。(4人以上お子さんがいらっしゃる場合は2枚を使って記入願います)
2. インフルエンザに複数回かかったと考えられる場合には、最初にかかった回についてご回答ください。

1.児童に関する質問（お子さまについてお答えください）

| | | | | | | | | | | | |
|----|--|-----|--|------|--|----|--|-----|--|------|--|
| 学年 | | クラス | | 出席番号 | | 学年 | | クラス | | 出席番号 | |
| 学年 | | クラス | | 出席番号 | | | | | | | |

2.病気に関する質問（2010年10月から2011年3月までの期間についてお答えください）

| | 1人目 | 2人目 | 3人目 |
|--|---|---|---|
| 何歳ですか(または誕生日を記入) | | | |
| 今シーズンにインフルエンザにかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない |
| 「はい」とお答えになった児童のみに関して下の質問にお答えください。「いいえ」または「わからない」とお答えになった児童については「3.生活および家庭に関する質問」についてお答えください。 | | | |
| それはいつですか | <input type="checkbox"/> 10月 <input type="checkbox"/> 11月 <input type="checkbox"/> 12月 <input type="checkbox"/> 1月 <input type="checkbox"/> 2月 <input type="checkbox"/> 3月 | <input type="checkbox"/> 10月 <input type="checkbox"/> 11月 <input type="checkbox"/> 12月 <input type="checkbox"/> 1月 <input type="checkbox"/> 2月 <input type="checkbox"/> 3月 | <input type="checkbox"/> 10月 <input type="checkbox"/> 11月 <input type="checkbox"/> 12月 <input type="checkbox"/> 1月 <input type="checkbox"/> 2月 <input type="checkbox"/> 3月 |
| 病院にかかりましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| 一覧(注)にあるお薬は処方されましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ |
| (注)インフルエンザに対するお薬一覧： タミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタ(注射剤) | | | |
| インフルエンザにかかった際に学校を休みましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない |
| その時に学級閉鎖や学年閉鎖あるいは学校閉鎖がされていましたか | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない | <input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/> わからない |
| 学校を休んだ期間は？ | 月 日～月 日 日間 | 月 日～月 日 日間 | 月 日～月 日 日間 |

3.生活および家庭に関する質問

| | | | |
|--|-----------|---------|----------------------|
| 発熱する前の7日の間にどんな課外活動を行いましたか (あてはまる番号をそれぞれに記入) | | | |
| | 1. 学習塾 | 2. スポーツ | 3. 習い事(ピアノ、そろばん、書道等) |
| | 4. その他() | | |
| 同居されている家族は全員で何人ですか？ | 人 | | |
| お勤めになられている方は何人ですか | 人 | | 人 |
| 大学生は何人ですか | 人 | | 人 |
| 高校生は何人ですか | 人 | | 人 |
| 幼稚園児・保育園児は何人ですか | 人 | | 人 |

回答が終わりましたら封筒に入れ、担任の先生へ提出してください。

ご協力ありがとうございました。調査に関してご不明な点は、裏ページにある連絡先までご連絡下さい。

研究概要

研究課題：インフルエンザ流行に対する学校の臨時休業の効果に関する研究

目的・意義

2009年にはいわゆる新型インフルエンザが出現して大きな社会問題となりました。わが国では他国に比して少ない死亡者数で収まり、それは様々な対策の効果があったからだと考えられます。一方で社会生活に大きな影響を与えたことも事実であり、対策の検証の必要性が指摘されています。本研究の目的はインフルエンザの流行においてどの程度の規模の伝播が学校に関連して発生しているのか、またどのような特徴があるのかを知ることです。その結果から学校におけるインフルエンザ伝播の危険因子を知ることができ、将来において学校の休業措置の基準を見直す上で役立つと考えています。

研究に参加することで被る利益および可能性のある不利益

本研究に参加されたことによる謝礼などは支払われませんが、この研究に参加していただくことにより、お子様を始めとする地域の皆様に対するインフルエンザの予防に寄与すると考えられ、より良い公衆衛生を推進するものと考えられます。

身体的に被るリスクはありません。また提供していただいた情報に関しては守秘義務を厳守いたします。なお本研究にご協力をお願いすることは地域で流行しているウイルスや流行の規模とは関係がないことを申し添えます。

守秘義務

本研究で頂いたデータは個人を特定できないように加工いたします。また本研究以外に使用することはなく、これらの情報は安全管理されたデータベースとして処理を行います。

研究参加の拒否

もし本研究に同意をされなかったとしても不利益は生じません。また同意された後でも、いつでも本研究から脱退することは可能です。希望の際には、下記連絡先までご連絡ください。その際には頂いたデータはこちらで削除するものとし、その後使用することはありません。

研究代表者

厚生労働科学研究費補助金「新型インフルエンザ流行時における公衆衛生対策に関する研究」

押谷 仁（東北大学大学院医学系研究科 教授）

こちらの研究についてご興味のある方は、

<http://www.virology.med.tohoku.ac.jp>にてご覧いただけます。

ご不明な点がありましたら下記連絡先までご連絡ください。

但し、この研究に関するご質問に限らせていただきます。

月-金曜日（時間 9:00-17:00、メールは 24 時間受け付けます）

担当 神垣 太郎 (gakkoproject@virology.med.tohoku.ac.jp)

東北大学大学院医学系研究科 微生物学分野

〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1

Tel: 022-717-8213 / Fax: 022-717-8212

インフルエンザ流行に対する学校の臨時休業の効果に関する研究（概要）

[背景]学校閉鎖のインフルエンザに対する効果は、理論的には有病率の高い年齢層である子供において感染機会を減らすために行われるものであるが、その程度あるいは公衆衛生学的な意義については依然議論が続いている。さらに諸外国では我が国で行われているような学級閉鎖から休校までのレベルを使い分けているわけではない。すなわち我が国で行われている学校での臨時休業措置に関する知見を集めることは今後のインフルエンザ対策に有効なだけでなく、インフルエンザの流行に関する知見を集められると期待できる。

[方法]

1. 概要

インフルエンザ患者の発生動向と学校（小学校および中学校）におけるインフルエンザ患者の発生数および学校の休業措置前後の比較を通して学校における休業措置の影響を検討する。

2. 研究人口および地域

小学校区を基本として中学校が必ず含まれるように 2 ないし 3 つの校区を組み合わせたものを対象とする。さらに 1) 幼稚園・保育園および高等学校を含むしているあるいは近接していること 2) 強化サーベイランスの対象地域である学校区群から選択する。小学校区の居住人口は約 8000 人であると考えた場合には、対象人口は 16,000-24,000 人となる。

先にあげた強化サーベイランスとは、国が実施している感染症発生動向調査とは別に医師会などが主体となって地域のインフルエンザ流行の動向を日常診療に資するために実施しているものであり、奈良市および広島市で実施されている。

3. 調査内容

A) 過去におけるインフルエンザの休業措置に関する調査

教育委員会が主管となっている小中学校で 2006-2010 年までの学級閉鎖、学年閉鎖および休校の実施時期、その期間、措置開始日のインフルエンザ患者数（または欠席者数）、措置解除後のインフルエンザ患者数（または欠席者数）について情報を収集し、のべ措置数と各シーズンにおける流行の規模について比較する。

B) 今シーズンにおける休業措置に関する調査

前述の研究対象地域において、今冬のインフルエンザシーズンにおける学級閉鎖、学年閉鎖および休校措置の実施時期、その期間、措置開始日のインフルエンザ患者数（または欠席者数）、措置解除後のインフルエンザ患者数（または欠席者数）について情報を収集するとともに、生徒に関する情報（座席表およびその家族背景、社会活動）を収集する。

4. 期間

2010 年 11 月 1 日から 2011 年 3 月 31 日まで

今冬のインフルエンザシーズンにおける学校の臨時休業の効果に関する研究実施要領

1. 背景

これまで厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業において「課題名：新型インフルエンザ大流行時における公衆衛生対応に関する研究（主任研究者：押谷仁）」で研究活動を行ってきた。また 2009 年におけるパンデミック（H1N1）2009 によるパンデミックの社会的なインパクトについては、従来想定されていたものよりも軽微なものであったがそれ

でも社会的に大きな問題となった。一方で他国と比較すれば、インフルエンザによる死亡率は小さかったことが指摘されており本邦で実施されたインフルエンザ対策は注目されており、学校における休業措置はその大きな柱となると考えられる。すなわち本分野における研究を進めていくことは非常に重要であると考えられる。

2. 調査内容

調査内容は大きく分けて2つある。1つは今冬のインフルエンザシーズンにおける生徒の欠席状況および学級閉鎖、学年閉鎖および休校措置の実施時期、その期間について情報を収集すること、第2に生徒（および教職員）に対してアンケート調査を行い、生活環境に関する情報を収集することである。

3. 研究対象地域

研究対象地域は医師会が実施している強化サーベイランスがカバーしている地域に所在する中学校区を2ないし3校選択して設定するものとする。合わせて含まれている小学校も対象とする。

対象学区の選定

- ・ 医師会サーベイランスがカバーしている地域
- ・ 複数の小学校区を含む中学校区
- ・ 2ないし3つの校区を選択する
- ・ できれば300人以上の在校生が存在する中学校がのぞましい

4. 研究実施に向けたフローチャート（カッコ内は担当部署）

- (ア) 研究対象学区の選定および決定、研究内容の確認（市教育委員会、小中学校、東北大学）
(イ) 質問票の印刷及び配布、学校における欠席者調査（東北大学）
(ウ) 研究開始（小中学校、東北大学）
(エ) 研究終了後にデータ回収（小中学校、東北大学）

5. 役割

I. 市教育委員会（以下、教育委員会という）

本研究に参加する小中学校との連絡調整。

II. 該当中学校および小学校（以下、小中学校という）

児童の座席配置表に関する情報提供、インフルエンザによる欠席者の把握および保護者へのアンケート調査票の配布および収集。

III. 東北大学大学院医学系研究科微生物学分野（以下、研究班という）

研究に関する問い合わせ窓口、研究実施にかかる調整、シーズン終了後のデータ資料の回収および保存、インフルエンザ強化サーベイランスデータをふまえた休業措置の効果に関するデータ解析

6. 実施要領

(ア) 研究準備

研究協力可能な中学校および小学校に対して協力依頼をしたのちに、使用する質問票および説明文書を各学校に対して印刷物として郵送する。その際に合わせて回収箱についても準備しておく。集計にその他必要であるとされるものについては連絡の上、対応する。

(イ) 質問票の配布

準備された質問票を全児童に対して配布する。質問用紙は全児童(および教職員)を対象にアンケート調査として配布する。回収は配布後1週間として集計などはせずにそのまま回収したものを郵送で研究班に郵送する。

(ウ) 学校の休業措置

学校の休業措置の際には、現行の報告システムに則って教育委員会に報告されるものを利用するものとする

7. 用語の定義

インフルエンザ：インフルエンザウイルスによる急性呼吸器感染症。

休業措置：学校長がインフルエンザ患者の増加を受けて決定する学校業務の停止措置。学校閉鎖、学年閉鎖および学級閉鎖をここには含めるものとする。

強化サーベイランス：医師会は日常の診療に資するために実施しているインフルエンザ患者の動向を監視している事業。

広島市：<http://www.city.hiroshima.med.or.jp/hma/influenza/diary.cgi>

奈良市：<http://nara-kansen.mahoroba.ne.jp/outuser.php>